

平成25年11月15日

いせ在宅医療クリニック
院長 遠藤太久郎 様

松阪市幸公民館

お 礼

晩秋の候、皆様益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

11月14日の幸公民館講座「最高の人生の終わり方」については、遠方よりお越しいただきありがとうございました。

エンディングノートについては当日、皇室のほうからも報道に上がりTV等で話題のテーマになったようです。さて、参加者のアンケートを集約しましたところ、役に立ったという回答がほとんどでした。

アンケートでの講座の感想を下記に抜粋して報告させていただきます。

- 着地（人生の）が大事という言葉が印象的であった。（70代男子）
- 年老いての独居及び今後増えるであろう未婚による独居者のノートの必要性が増えること（60代男子）
- 「ミニ自分史」に合わせて「最高の人生の終わり方」を作成したいと思います。（70代男子）
- 緩和ケアが良くできて来たことをお聞きして、すごく安心することが出来、今日出席して大変良かったです。（60代女子）
- エンディングノートはこっそり書くのではなく、相談して書く・・・なるほど納得（70代女子）
- 最高の人生の終わり方というものの、いつが最高なのか。これから生まれてきてよかったと思える人生にしていきたい。人生についての講座がこれからもあると良いと思う。（80代女子）等

さまざまな、地域環境や家族生活を背景にこの日、改めて人生に向き合える場を提供していただいたように思われます。重ね重ねお礼申し上げます。機会がありましたらまた、ご来館ください。

